

サラヤ株式会社御中

ウガンダ国モロト県における生計向上支援と母子栄養指導を通じた栄養改善事業
写真報告書 第2四半期（2025年2月～2025年4月）



2025年5月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



1. 事業概要（各四半期共通）

事業名	ウガンダ国モロト県における生計向上支援と母子栄養指導を通じた栄養改善事業
事業期間	2023年3月～2026年7月（40ヶ月の見込み）
対象地	ウガンダ共和国カラモジャ地域モロト県（首都カンパラから約480km、車で約10時間）
事業の上位目標	支援対象準郡において妊産婦及び2歳未満の子どもの栄養状態が改善される
ひ益者数	約10,000人（農家160世帯、混合農業普及員20人、村貯蓄貸付組合8団体、医療従事者30人、村落保健チーム80人、保護者約1,600人、子ども約8,000人、栄養分野の行政関係者40人）

ウガンダ北東部のカラモジャ地域には、歴史的に多くの牧畜民が居住しており、主に畜産と雨に頼った天水農業で生計を立てていますが、頻繁に干ばつが発生するため、人々は食料援助に頼らざるを得ない状況です。貧困率も60.2%とウガンダ国内で最も高くなっています。下記の写真でもわかるようにウガンダ中央部と比較してとても乾燥した地域です。

同地域に位置するモロト県では、住民の50%が十分な食料を手に入れられず、その一部は飢餓リスクにさらされており、子どもたちの栄養状態に大きな影響を与えています。4割近くの子どもの慢性栄養不良の状態にあり、乳幼児死亡の45%が低栄養に起因しています。また、栄養不良は子どもの認知発達の遅れや学力の低下につながり、子どもたちの健全な発達を妨げます。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、サラヤ様からのご支援とその他日本政府資金等をもとに、子どもの低栄養が深刻であるウガンダ・モロト県で、農・畜産業支援を通じた生計向上、母子栄養に関する保健サービスの改善、保健と農業のセクター間の連携促進の活動を実施し、コミュニティが主体となった栄養改善に向けた活動を定着させ、5歳未満の子どもの栄養状態の改善を目指します。

サラヤ様からのご支援を受けて、本事業の1年目にあたる2023年3月から2024年7月にかけて、モロト県タパッチ準郡にて事業を実施しました。その知見を活か



【左】飛行機から見たウガンダ中央部とカラモジャ地方の比較。右がカラモジャ【右】土・藁・木を使った現地で一般的な家屋。

し、2024年8月より、同タパッチ準郡に加え、ルプトゥック準郡とカティケキレ準郡の計3準郡に対象地域を広げ、本事業の2年目の活動を開始しました。以下に、本報告期間の活動の様子をご紹介します。

2. 本報告期間の活動の様子

2-1. 農・畜産業支援を通じた生計向上

本報告期間中、農業や畜産の知識を地域の人々に伝える役割を果たす混合農業普及員8人と地域ボランティア10人を対象に、4日間の研修を行いました。テーマは「収穫後の作物の扱い方」で、ウガンダ国立農業研究機構（NARO）の専門家が講師を務めました。研修では、食べ物が傷んでしまう原因とその防ぎ方、加工の工夫や保存の方法、野菜（葉物・根菜・果菜類）や豆類、トウモロコシやソルガムなどの穀物の取り扱いについて学びました。また、作物にひと工夫を加えることで価値を高める「付加価値化」の考え方についても紹介されました。講師からは、家庭の収入をさらに増やすためには、食べ物の加工方法や使い方、収穫した作物からできる新しい製品の作り方、市場で売るための工夫などを学ぶ定期的な研修が大切であると強調されました。



フィールドデイの様子

3月24～25日には、モデル農園にて本事業で支援している農家たちが、準郡および県の行政官に対して、研修で学んだ農法を実演するフィールドデイを2つの準郡で実施しました。フィールドデイには、134名の農家、9名の混合農業普及員、6名の地域ボランティア、25名の県・準郡行政官が参加し、計174名が集まりました。異なるグループや地域のメンバーが一つの場所に来ることで、参加者同士の交流や学び合いが促進されました。農家たちは、モデル農園で実践している土壌の栄養管理やオーガニック害虫駆除薬の使用方法などについて参加者に積極的に説明していました。また、準郡や県の関係機関が関与することにより、農家が地域の技術的および政治的リーダーとのつながり、対話が生まれました。さらに、セーブ・ザ・チルドレンの農業技術官も参加し、事業スタッフと技術的な改善点について議論し、今後の方向性を確認しました。



養蜂キットを受け取る農家

また、モデル農園と家庭菜園で使用する長靴68足、60個の巣箱を含む養蜂キット（防護服、巣箱用ツール、手袋、蜂蜜搾り器等）を小規模生産者グループに供与しました。農家グループのメンバーは、本事業で採集した蜂蜜を5つ（1つあたり20L120,000シリング（約4,750円））市場にて販売し、600,000シリング（約23,700円）の収益を得ました。彼は、「採集した蜂蜜の一部は自家消費し、子どもの咳などの病気の予

防、免疫力向上にも貢献している。養蜂キットを提供してくれたサラヤ様と研修を実施してくれた事業に感謝しています。おかげで家庭の生計が向上し、栄養状態も向上しました。」と話します。

2-2. 母子栄養に関する保健サービスの改善

村落保健チームは、コミュニティで上腕周囲径を使用した子どもの栄養スクリーニング活動を定期的に行っています（表紙写真）。本報告期間中に 3,822 人をスクリーニングした結果、新たに 10 人が重度急性栄養不良、105 人が中等度急性栄養不良と判断されました。栄養不良と判断された子どもは、適切な支援が受けられるように、重度の場合は病院や保健施設、中等度の場合はコミュニティ内の栄養プログラムに紹介しました。また、村落保健チームによっても、栄養不良やそのリスクがある子どもをもつ家庭の継続的な訪問、経過観察を行い、改善に向けたフォローアップを実施しています。

事業地域の 9 つの保健施設とそのコミュニティでは、栄養啓発活動と調理実習を継続して実施しています。栄養啓発活動には、妊婦や授乳期の女性、男性などの 2 歳未満の子どもの養育者や子どもたち、計 3,591 人が参加しました。また、調理実習には計 420 人の養育者と子どもたちが参加し、食品グループや栄養価の高い食材を使ったレシピなどを学びました。参加した母親（ナワナトワ地域の母親グループのメンバー）は、「6 か月の息子への正しい授乳方法や、1 日に何回授乳すべきかを学びました。栄養啓発活動に参加したおかげで、以前と比べて効果的に授乳をできるようになりました。」と話しています。

また、40 の母親グループに対し、グループ農園および家庭菜園用の野菜の種子（トマト、玉ねぎ、茄子、ササゲ、ケール、鉄分強化豆）を供与しました。また、24 の母親グループを対象に、2 日間の村落貯蓄貸付組合（VSLA）に関する研修を実施し、VSLA キットを配布しました。VSLA は、地域の人たちが定期的に少しずつお金を出し合い、必要なときにそのお金を貸し借りできる、助け合いの貯金グループ活動です。家庭の急な出費や小さな商売の資金などに活用され、地域の人々が協力して生活資金を管理できる仕組みです。本活



村落保健ボランティアと駐在員



養鶏研修の様子

動は当初の事業計画には含まれていませんでしたが、農家グループの VSLA 活動を見ていた母親たちから「自分たちもやってみたい」という強い希望が寄せられ、関心のある母親グループを対象に実施することになりました。

さらに、15 人のコミュニティボランティアを対象に、セーブ・ザ・チルドレン所属の獣医が 2 日間にわたる養鶏研修を実施しました。研修では、鶏の給餌と栄養管理、よく見られる病気の兆候とその対応方法、感染症予防に必要なワクチンの種類や接種スケジュールなどについて学びました。現在、サラヤ様からのご寄付を活用し、母親グループのメンバーに鶏を配布するため、養鶏場の視察やワクチン接種などの準備が進められています。母親グループのメンバーたちは鶏の受け取りを心待ちにしており、自ら準備した鶏小屋を誇らしげに見せてくれました。



母親グループメンバーが準備した鶏小屋

2-3. セクター間連携

本報告期間中、栄養計画および予算配分における他セクターとの連携強化を目的として、他 NGO と連携して、モロト県にて県栄養調整委員会および栄養計画策定に関する研修を実施しました。県栄養調整委員会の会議では、県および準郡の最新の栄養指標の達成度が共有されるとともに、各団体の活動計画が発表されました。また、本事業が支援するカティケキレ準郡の行政官からは、準郡栄養計画の策定が完了したとの報告がありました。本事業での支援により、行政が主体的に栄養改善に取り組む姿勢がみられて始めています。研修では、県栄養計画の進捗状況の振り返り、各関係機関の役割と責任の明確化、そして今後の活動に向けた予算と計画の策定に重点が置かれました。



モロト県栄養調整委員会の様子

3. 今後の活動予定

次期四半期には、対象農家への技術指導、VSLA 活動のモニタリング、栄養啓発活動、栄養スクリーニングおよび家庭訪問などの活動を継続します。また、準郡栄養調整委員会やモロト県におけるセクター間連携強化のための栄養研修も実施予定です。さらに、7 月末の 2 年次事業終了に向けて、事業評価調査や成果報告会も実施する予定です。

以上